

楽しい話し合い・相談・情報交換ができる認知症カフェ

オレンジカフェ静岡

1月16日 2時～4時 オンラインで行います



プロフィール

1995年 上智大学文学部
心理学科卒。精神科ソーシャル
ワーカーを経て社会福祉
法人静和会入職。
社会福祉士、介護支援専門員

明けましておめでとうございます。まだパンデミックは終わったわけではありませんが、昨年よりは穏やかな新年を迎えることができたように思います。

コロナ禍の昨年、静和会では二つの新規事業を始めました。一つは四月より駿河区みずほにて少人数制放課後児童クラブ「コミパキッズクラブ」、もう一つは六月より静岡市全域の住宅確保要配慮者居住支援事業「居住支援法人パラレル」です。これまでは高齢者の福祉や介護を生業としてきましたが、近年の福祉課題は多様化・複雑化しており、一つの世帯の中で複合的な課題を抱えるご家庭も少なくありません。そこにコロナショックが襲いかかり、事態は深刻さを増してきました。

この二つの事業を通して、これまであまり出会うことの無かった、ひとり親家庭、ホームレスの方や精神

ごちゃまぜな福祉を目指して

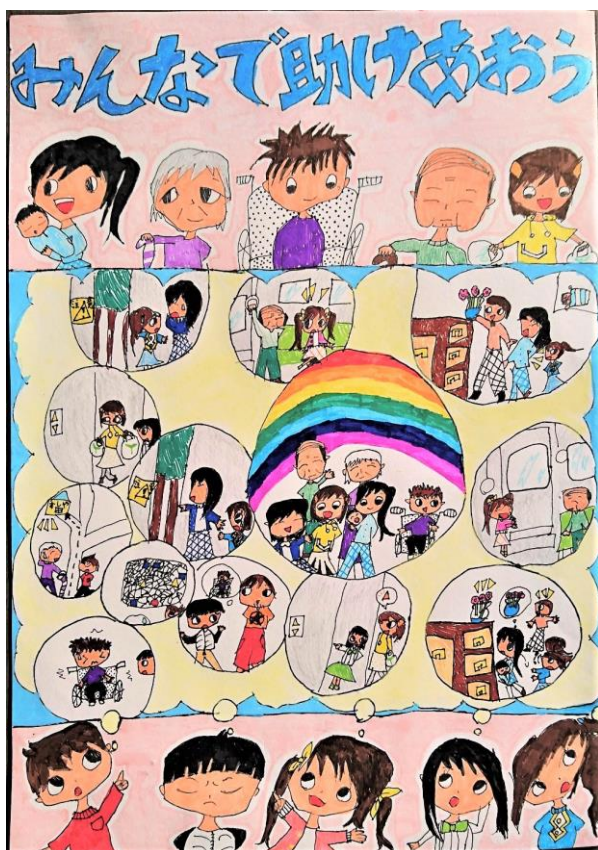
岩崎 稔

社会福祉法人静和会 常務理事・事務局長

障がい者、ゲーム依存症の若者、発達障がいのお子さんなどのかかわりから多くのことを学んでいます。

ポストコロナに向かって、福祉の対象を高齢者に限定せず、児童・障がい・居住支援・就労支援・生活困窮者支援など、地域における多様な福祉ニーズに対応できる「ごちゃまぜ社会福祉法人」を目指してまいりたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



岩崎友花さんの絵（小学校四年生 岩崎稔さんの長女）

令和三年度「福祉のまちづくり絵画コンクール」にて、
静岡県共同募金会長賞を受賞

エッセイ 大井 玄 先生

ボクはやっと

認知症のことがわかった

「病と詩【61】(『ケセラセラ』Vol. 107) より抜粋」

1963年 東京大学医学部卒業

ハーバード大 公衆衛生大学院修士修了、
東京大学医学博士、東大国際保健学専攻教授、
東京大学名誉教授、元国立環境研究所所長、
東大医学部衛生学教室で認知症の調査

現在 86歳 在宅訪問医

『病から詩がうまれる 看取り医がみた幸せ
と悲哀』朝日選書など著書多数

人間関係というストレス

長谷川先生は物静かで学者らしい白哲(いろじろ)の風貌の持ち主だった。「病院では落ち着いているのに帰宅すると、夜間せん妄のような周辺症状が出るのは、なぜですか」と質問すると、彼は眉を少しひそめて答えた。「うーん、それは私にも判らないのですよ。しかし患者が退院帰宅すると、また症状が出るだろうということは、私も、いや研修医などでも予測できるのです。たとえば、介護者が見舞いに来て患者と話をして帰った後、患者がしくしく泣いている。こういう時は、まず必ずと言っていいほど症状が現れますな」。

先生の答えは示唆的で、私たちの予想に合うものだった。「そうだ！介護者との人間関係の良しあしが周辺症状(注)の発現につよく影響しているに違いない！」。人間関係は、認知症高齢者にとって、つよいストレス源となっているはずだ。

私たちのグループには心理学専攻の者もあり、みんなで相談して「主要介護者虚弱老人・人間関係スケール」をつくった。これは小さい子供と親との関係を調べるスケールに準じたものだった。つまり、言語的表現が比較的あてにならず、態度の方が両者の関係を現していると考えなのだ。たとえば母親に「あなたのお子さんを愛していますか？」と聞くならば、そうでなくとも「はい」と答える確率が高いだろう。もし子供がほんとうに可愛いなら、抱き上げてキスしてあげることが多いだろう。

このスケールを用いて、長野県佐久市、東京都杉並区、沖縄県名護市で調査した結果、どこにお

いても人間関係の悪い群と良い群とでは、周辺症状の発現率に明瞭な差が認められたのだった。人間関係が悪い群では、よい群に比べ、常にはつきりと、周辺症状が多く現れていた。(中略)

東京には、認知症高齢者が安心して生活できる環境が、(沖縄県)佐敷村にくらべて、べらぼうに少なかったのである。

自分になる「認知症」

認知症になる確率は加齢とともに増えていく。七十代前半では数パーセントだが、後半になると一〇、八十代前半では二〇、後半で四〇パーセントに達し、超高齢の九十代には過半数を超える。その大部分を占めるのがアルツハイマー型認知症である。つまり「人生百年」の時代には、長生きする者には認知症になる覚悟が必要になってくる。その時どのようなケアを社会が用意すべきなのか。

東京大学医学部精神科教授、都立松沢病院長などを歴任した松下正明さんは、かつて日本老年精神医学会の基調講演で聴衆を驚かせたことがある。それは、超高齢者の大部分を占めるアルツハイマー型認知症は特別の病気というよりも老耄(ろうもう)の現れだ、というものだった。両者において脳の病理的知見に差が見られないし、臨床症状も酷似している。(三面下段につづく)

(編集者注)

周辺症状…認知症の中核症状はもの忘れです。怒ったり騒いだり、徘徊するなどは認知症の症状ではなく、忘れることへの不安や恐怖などからもたらされています。安心できる環境では起こりません。

先日、聖マリアンナ医科大学名誉教授の長谷川和夫さんが老衰で亡くなった。九十二歳だった。職業上認知症にかかわりがあるなら「長谷川式認知症スケール」を使ったことのない人はいないだろう。彼は自身が嗜銀顆粒性(しぎんかりゅうせい)認知症にかかっていることを公表し、朝日新聞のインタビューでは「隠すことはない」「年を取ったら誰でもなるんだな」と皆が考えるようになれば、社会の認識は変わる」と、専門医である自分が認知症になった意義を語っている。

その後も「認知症というのは決して固定した状態ではなくて、認知症とそうでない状態は連続している。つまり行ったり来たりなんだ」と、専門医であり認知症当事者でなければ語れない経験をおべている。

回想すると、私も長谷川先生の教えを受けた一人だった。(次章「『ぼけ老人』に会うまで」を略)

「1159」

なんの数字が わかりますか？

たたらなおき さん



自画像



久能山東照宮に登る階段の数ですね。

「いちいちごくろうざん」という語呂合わせで覚えている方はれっきとした静岡市民ですね。

息を切らしながら拝殿の前に立ちますと、その正面上に小さいながらも美しく彩られた彫刻が掲げられているのが見えます。

それは「司馬温公の瓶割り」という題名のレリーフです。いったいどんな逸話なのか、それを描いたのが絵本「くろうざんものがたり」です。

二〇一三年に久能山東照宮の落合宮司のご依頼で制作いたしました。宮司はこの絵の前で参拝客によく解説されるそうですが、ぜひ絵本にしてより多くの方々に伝えたいということで描くことになりました。

この絵に限らず東照宮の境内にはさまざまな彫刻が刻まれており、ひとつひとつ意味が込められています。中でも拝殿正面のこの絵は、境内に埋葬されている徳川家康公の思いが、後世に伝えるべき教訓がつまっているということです。しかしそれは難解なことではなく、まさに絵本に相応しいストーリーなのです。

その後、「くろうざんものがたり」第二弾として、久能山の洋時計の絵本も出版することになりました。

いずれにしても静岡市にもあまり知られていない誇るべき遺産が数多くあることを制作しながら学ばれますし、また絵本を通して多くの皆様に知っていただければ幸いです。

（二面からの続き）

その意味合いは明らかだろう。長生きすれば「認知症」になるのは、老化の現れとして自然だということである。

長谷川和夫さんは認知症になって、『ボクはやつと認知症のことがわかった』を書かれたが、それは実感であろう。認知症になって初めて、外から見た認知症ではなく、内から体験する認知症理解が可能になったのだ。

日本の認知症対応は、常に、外から認知症高齢者を見てきた。それは「なにもわからなくなった人」であり、「ケアの対象になる人」という見方だった。私たち誰もが認知症になるまで生きる時代には、長谷川さんの「認知症とそうではない状態は連続している」という内からの発見をふまえ、認知症高齢者には「主体的に人生を生きる人」つまり「自分自身」として対応しなければならぬ。

それはデンマークなど北欧において行われ始めている対応であり、かつて沖縄の佐敷村でも行われていた高齢者への対応である。要約すれば、住み慣れた地域で、敬意をもって、生活支援をすること、と言えよう。

冬の夜や 銀河に急ぐ ボケ老人 了

（このエッセイは、大井先生のご許可を得て、転載させていただきます。）

たたらなおきさんのプロフィール

静岡出身。絵本、造形作家。絵本、「まんがで分かる今川義元ものがたり」「日本の神話シリーズ」など多くの作品の他、さまざまな材料を使ったオブジェやモニュメントの制作など、幅広く活動されています。

今年も「絵本のもつ力」を探究?!

上藤美紀代さん

絵本専門士
ヴォイスセラピー実践研究家

昨年は、複数の絵本講座を通し、その奥深さ、面白さゆえに絵本に魅了される方(男性も!)が増えていることを実感いたしました。お孫さんに読んであげたい、読み聞かせボランティアをやりたい、自分のために読みたいなど動機はさまざまですが、絵本に興味や関心を寄せてくださる方の輪が広がり嬉しい限りです♪。

”誰かのために”読むという読み方は、ただ「音読」するよりも脳の活性化が期待できます。また対象があることにより(イメージだけでも)表現が優しく穏やかに、ときに深く、と豊かになります。

今月はオンラインで行います

先月、市の「かけこまち七間町」の会場にお越しいただきました皆さまには申し訳ありませんが、コロナの感染がまた拡大傾向にあり、今月はオンラインで開催いたします。

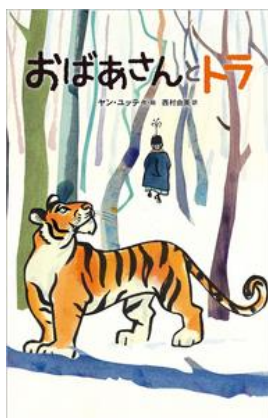
オンライン参加のお申し込み

一月十六日(日)二時~四時のオンライン・カフェ参加のための情報は、これまで参加された方には遅くとも前日までにお送りします。申し込みの必要はありません。

オンライン・カフェにこれまで参加されたことのない方は、十四日(金)までに、下記のメールアドレスまでお申し込み

昨年暮れ『おばあさんとトラ』(作:ヤン・ユツテ、訳:西村 由美)という絵本が徳間書店から出版されました。作者はオランダで最高の絵本作家に贈られる「金の絵筆」賞を3回も受賞しています。「一人暮らしのおばあさん、掛けがえのない友となったトラが」ホームシック“にかかってしまったときある決断をします。凜としたおばあさんとやさしいトラの心あたたまる物語」

寅年、私はこの絵本から一年をスタートさせてみようと思っています。



ください。当日までに、オンライン・カフェのZOOMのアドレスと、ミーティングのパスコードをお送りします。

オンラインのための講習会のご案内

一月十四日(金)午後二時~三時半

会場 城東コミュニティプラザ・ハピスポ

講習会に参加するには、パソコン(ネット接続

済)、タブレット、スマホのいずれでも可能です。

当日お使いになる予定の機器をお持ちください。

お申し込みは、事前にメールか電話でお願いします。

会場 静岡市葵区城東町 34-14

城東コミュニティプラザ
HapiSpo (ハピスポディ和かな)

会場提供 社会福祉法人静和会

共催

NPO 法人ヒューマン・ケア支援機構

社会福祉法人静和会

☎ 090-5620-6070

連絡先

✉ orange@npo-humancare.jp

今月の相談担当者

伝馬町横内地域包括支援センターから、清島順子さん(保健師・看護師)がいらして相談にのってくださいます。

オンライン・カフェのプログラム

- 一、ミニ講話 たたらなおきさん
 - 二、希望するグループで話し合い
 - ① たたらさんと話し合い
 - ② 懐かしい歌を歌いましょう
 - ③ 相談(守秘を守ります)
- 当日までに、希望するグループを考えておいてください。